

平成 27 年度「特別支援教育に関する実践研究充実事業
(特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究)」報告書

団体名	熊本県
研究開始年度	平成27年度

I 概要

1 指定校の一覧

設置者	学校種	障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
熊本県	特別支援学校	知的障害	くまもとけんりつくまもとしえんがっこう 熊本県立熊本支援学校

2 研究テーマ

育てたい「資質・能力」と指導目標・内容の構造化
～キャリア発達を促す基盤となる資質・能力の整理と指導の充実～

3 研究の概要

自立し社会参加するために育てたい「資質・能力」を整理し、それを身につける事例研究・授業実践を行い、カリキュラム・マネジメントに結びつけるようにした。

- (1) 熊本県立熊本支援学校（以下、指定校とする。）の学校教育目標が示す「めざす子供像」の実現のために必要な能力や態度を、育てたい「資質・能力」として整理した。

整理にあたっては、小学部から高等部まで、または発達段階に応じて指導目標が適切に積み上げられるよう、段階を設けて整理した。

- (2) キャリア発達を促すことをテーマに全教職員で一人1事例研究・授業実践を行い児童生徒一人一人の力を伸ばす指導を充実させるようにした。

事例研究では、指導目標を明確に絞り込むために、育てたい「資質・能力」を学習指導要領が示す各教科等の内容に関連付けて課題分析を行った。また、日々の授業の充実に向けて、学習指導案（略案）を用いて全ての学習グループで授業研究会を行った。

- (3) 各教科等を合わせた指導と教科別の指導のそれぞれの特徴を生かすなど、育てたい「資質・能力」を育む指導を効果的に実現するために教育課程の改善を行った。

これらの取組に加え、教育課程改善のPDCAサイクルを支える校内体制の整備も併せて行い、学校全体の組織力でカリキュラム・マネジメントを行うようにした。

4 研究の成果

- (1) 学校教育目標が示す「めざす子供像」を実現するため、児童生徒に育てたい「資質・能力」を一覧表として整理し、各学部のめざす児童生徒像や個別の指導計画、教科別の指導等の年間指導計画、学習指導案に位置付けたことで、育てたい「資質・能力」を学校全体で意識して実践を行うことができた。
- (2) 育てたい「資質・能力」を育む一人1事例研究を全教職員で取り組んだことで指導の充実につながり、教育課程編成の下支えとなる教職員の専門性が高まりつつある。
- (3) 育てたい「資質・能力」及び根拠となる学習指導要領の内容を教科別の指導等の年間指導計画、学習指導案（略案）に明記し、授業実践を行うことで、授業で育てたい「資質・能力」や授業の根拠を意識した実践を行うことができた。
- (4) 新しく見直した教育課程編成の基本方針に、教科別の指導と各教科等を合わせた指導とのバランスが取れた教育課程編成を行うことや育てたい「資質・能力」を高めることを目指した教育課程編成を行うことを示したことで、全ての教育活動をこれらの視点で見直していくことにつながった。
- (5) 日々の授業実践を「授業評価シート」にまとめ、「教育課程評価アンケート」に反映させることで、日々の授業改善を教育課程改善につなげるシステムの構築ができつつある。

5 課題と今後の方策

- (1) 児童生徒のニーズや社会の動向等を踏まえた、育てたい「資質・能力」の見直しの検討。
学校教育目標が示す「めざす子供像」自体の見直しについても検討していく。
- (2) 育てたい「資質・能力」に関するより妥当性のある目標設定と適切な評価の実施。
育てたい「資質・能力」について、「関心・意欲・態度」「知識・理解・技能」「思考・判断・表現」の3観点から作成した「観点別の引き出したい姿」を例示し、それを参考に個々の教職員が実践を深めることで、より妥当性のある目標設定と適切な評価につなげる。
- (3) 一人一人の教育的ニーズに応じた教材の工夫や一斉指導場面の進め方等、授業の質の更なる向上。
年間を通して授業研究会を定期的に設定し、育てたい「資質・能力」の高まりや根拠となる学習指導要領の指導目標・内容を押さえた授業実践を積み重ね、授業の質の向上を図る。
- (4) 日々の授業による児童生徒の変容を集約し、教育課程改善につなげる方法の検討。
日々の「授業評価シート」の活用について検証し、教科別の指導等の年間指導計画や週時間割等を改善していくシステムを整理する。
- (5) 全教職員が教育課程改善のPDCAサイクルに参画する体制の整備。
教職員個々の業務と教育課程改善との関連を可視化し、全教職員が教育課程改善に参画する体制を整備する。